第10回信濃町総合教育会議 会議記録

開会及び閉会　　令和７年７月18日（金）午後３時10分開会
　　午後５時25分閉会

会議場所　　信濃町役場公室

出 席 者　　鈴木町長、小林副町長、北村教育長、
　　吉川職務代理、竹島委員、水澤委員、大澤委員

事務局等の出席職員　　渡辺次長、小林総務教育係長、外谷場子ども支援係長、山原黒姫童話館係長、駒村野尻湖ナウマンゾウ博物館係長、渡辺一茶記念館係長

１　町長あいさつ

２　協議事項
（１）信濃町保育環境あり方検討委員会について
・経過報告
・経過のまとめ
・提言の素案
・今後の予定
（２）文化三館の現状について
・現状について
・文化観光の推進について

３　その他

４　閉会

渡辺教育次長

ただ今から第10回信濃町総合教育会議を開催します。

総合教育会議の招集は町長が行うこととなっておりますので、鈴木町長からあいさつをお願いします。

鈴木町長

本日は、第10回信濃町総合教育会議ということで、お集まりいただきありがとうございます。町教育行政に御理解とご協力賜りまして感謝申し上げます。

本日の会議の内容でございますが、町と教育委員会と信濃町の教育に関し課題や目指すべき方向性について情報共有し、連携して教育行政推進していくという会議です。本日は２点テーマを設けました。よろしくお願いいたします。

渡辺教育次長

それでは議事に移ります。

要綱上、特に議長の定めはありませんが、慣例により町長の進行でお願いします。

鈴木町長

はじめに（１）信濃町保育環境あり方検討委員会について議題といたします。

事務局から説明をお願いします。

外谷場子ども支援係長

【資料により説明】

あり方検討委員会の経過報告をいたします。

昨年の教育会議では、第３回までの委員会の報告をいたしました。それ以降について報告いたします。

第４回は令和６年９月に開催し、委員に自由記述で「どんな保育環境が望ましいか」という内容でアンケートを実施した結果を報告しました。その中では適正配置については、１つの保育園と、２つの保育園という意見がありました。また、中には保育のあり方を一元化しないという意見もありました。４園を残すという意見はありませんでした。

保育の内容については、自然環境を活かす保育や、施設に関しては通園の距離によっては、登園バス等の利用も検討が必要という意見がありました。

また、その他の意見として現場の保育士の意見を聞きたいという声もありましたので、保育士へもアンケートを実施しました。

第５回は令和６年11月に開催し、保育士へのアンケート結果を報告しました。対象は、会計年度任用職員も含めた保育士及び調理員です。結果に関しては、「保育士不足もあるため、統合して質の高い保育をしたい」という意見が多かったです。調理室に関しては、「施設の老朽化により衛生面で懸念がある」や設備的な部分での意見がありました。子どもの保育環境は、「異年齢では集団遊びが難しい」という意見がありました。また、保育士の労働環境についても「休暇の取得が難しい、休憩時間が取れない」などの意見がありました。その他として、用務員が必要との意見がありましたので、今年度より１名会計年度任用職員を雇用しまして、保育士の負担軽減を図っています。

この第５回は、「子どもにとっての望ましい保育環境」「保育の中心となる保育士を支える環境」をテーマにして、グループワークを行いました。「子どもにとっての望ましい保育環境」では、安全・安心・質の高い保育、施設の充実、保育士の配置（統廃合）、園外の人材活用、設備の充実、「保育の中心となる保育士を支える環境」では、業務・施設等の労働環境改善による負担軽減という意見でまとまりました。

第６回は令和７年１月に開催し、「保育園を１つ統合」「４園体制を継続」「２園又は３園体制」それぞれの利点と課題についてグループワークをしました。

「１つの統合」の利点は、集団活動がしやすく質の高い保育ができる、運営費の削減、課題は、1 人ひとりへの対応ができるのか、地域とのつながりが薄くなるという意見がありました。「４園継続」の利点は、地域の良さが感じられる、保護者とのコミュニケーションが取れる、課題は、グループでの活動が難しい、建物の老朽化、保育士不足という意見がありました。「２園又は３園」の利点は、園の選択ができる、課題は、未満児の預かりの対応や改修工事が必要との意見がありました。

グループワークでの話し合いの結果に対しての意見として、小中学校では、特性のあるお子さんの居場所があり、１園にした場合にも同様の対応ができるのではないか。場所によっては、通園対策が必要。保育園入園から９年生まで同級生が変わらないという意見について、人口の少ない自治体ではすでにこのようになっていると思うので、その自治体の意見を聞いてみてはという意見がありました。また、４地域ごと主張を続けるのではなく、１園にした方が活動がしやすいのではとの意見がありました。

第７回は令和７年３月、第８回は令和７年５月に開催し、保育園の現状と施設管理等について議論しました。

１園にした場合、現在より保育士に 15 名余裕ができます。２園にし柏原と古間にした場合は、16 名余裕がでますが、受入定員の関係で待機児童が発生します。また、統合した場合、新築する規模にもよりますが、維持管理費が単年で約 11,000,000 円が約 5,000,000 円に縮小、修繕費は単年で、約 1,300,000 円が約 200,000 円に縮小と予想されます。

４園継続した場合、数年内に空調設備工事約 30,000,000 円、LED 化工事約 4,000,000 円の費用がかかると予想されます。

野尻、富士里の木造園舎は築 50 年が経過し、一番新しい古間でも築 33 年となっており、施設の更新を考えなければならない状況です。保育士の効率的な配置を行っても現在の園舎では３歳未満児は定員が超過し、待機児童が発生する可能性があります。

今までの検討結果をもとに提言書の素案を作成していきます。今後の予定としては、必要に応じ住民アンケートの実施等を実施し、委員の任期の令和８年２月までに、提言書の提出していきます。その後、来年度以降は、いくつか部会を立ち上げ具体的な議論を行い、住民懇談会の実施等をしていこうと思います。

鈴木町長

ただいま事務局から説明をいただきました。

子ども減少、保育士の確保の難しさ、施設の老朽化などがある中で、未満時保育のニーズが増えているのが現状です。

竹島委員

報告を聞くとずいぶん進んだように感じました。先延ばしにできない問題だと感じてい

ます。委員会として答申と意見をもらい早急に方針を出したいと思います。

鈴木町長

住民懇談会等の開催など、計画を立てて前へ進めていきたいと思います。

北村教育長

今回の資料は、総合教育会議用に作成しました。提案書は令和８年２月頃にしたいと考えています。その前の住民アンケートを実施や、パブリックコメントなどもこれから検討する段階です。委員の皆さんからのご意見をいただければと思います。

大澤委員

森の中での保育が理想です。保護者は、元気でケガなく家に戻ってきてほしいと思っています。そんな思いから、もし保育園を立てるとしたら新病院の横などがいいと思いました。

鈴木町長

確かに、病児保育などのニーズはあります。ただし、病院の敷地の近くに保育園土地の広さが確保できるかの確認が必要です。場所については、建設部会（仮）で検討してほしいと考えます。

子育ての充実は、木育ルームなかよしの利用者や妊婦などの情報共有も行っていきたいと思います。

吉川委員

現状の問題と課題、対策について良く分かりました。もし統合するとなっても、町の人口が減少する中で、人を呼び込み、園児を増やす方法も、部会の中で検討してほしいです。特色ある保育園にして、それを魅力として人が集まる町にしてほしいです。画期的な意見がでるような会にしていただき新しい方向性がでることを期待します。

鈴木町長

人口施策とセットで考えることが必要と思います。子供の数は毎年 30 人を維持したいと考えています。そのため、20 代 30 代の世代をある程度維持していく必要があります。移住促進と、子育て施策の充実など、トータル的に考え施策の組み立てをしていく必要があると考えています。

職員の人口に対する意識の醸成を図るなど、職員の意識の改革のため、地域おこし協力隊や、総務省の支援員制度を使い、具体的な施策につなげていこうと思います。

小林副町長

検討委員会は、保育サービスをどうするかなど、目指す目的を提言として先にいただきたいです。そして、保護者の保育ニーズを把握し、それに対してどうやっていくのか考えることが必要だと思います。

水澤委員

子供を預ける側のニーズと預かる側にニーズがあると思います。例えば、預ける側は、安心して預けたい、未満児保育を最優先に考えてほしいです。また、預かる側は、施設などの受け入れる環境面が考えられます。その両面から目指すべき目的をいただければいいと思います。運用方法は、やり方次第でどうにかなることもありますが、建物などのハードな面は新たに建てるなどしないといけないかもしれません。ソフト面とハード面両方の視点でお願いしたいと思います。

鈴木町長

そうですね、ありがとうございます。大切な意見だと思います。

小林副町長

保育園の管理運営に関しては教育委員会に委任されています。その後建物については町長がすることになります。管理運営に関して提案をいただき、その後建物については長部局が検討することになります。

鈴木町長

それでは、次の議題に進まさせていただきますがよろしいでしょうか。

（委員異議なし。）

鈴木町長

（２）文化三館等の現状について事務局から説明をお願いします。

駒村野尻湖ナウマンゾウ博物館係長

【資料により説明】

課題は、入館者や発掘参加者の減少が課題です。まずは町民にもっと知識を習得してもらうことや、応援団になってもらうこと、地域とのつながりを持てればと思います。

観光に対するアイディアは、遊覧船会社と連携し、遊覧中に野尻湖の地形や歴史について解説及び博物館の展示解説を行っています。また、県内小中高校にチラシの配布等を行い集客を行っております。

鈴木町長

質疑等は説明後一括でお願いいたします。

つづいて一茶記念館について説明をお願いいたします。

渡辺一茶記念館係長

【資料により説明】

課題は、関係団体の減少、展示の旧式化、広告宣伝の困難化になります。住民の方の中には若い世代でも、地元でリーダーとなれる人材がいます。そういう方たちを組織化して、町の魅力や課題を再発見してもらえるような活動ができないかと思います。機運情勢と、組織を引っ張る人材の育成を図る必要があります。

令和８年・９年度は、一茶 200 回忌・没後 200 年の節目の年にあたるので、様々な企画を実施し、一茶に再注目してもらい、顕彰の機運醸成を図りたいと考えています。

観光に対するアイディアは、町内を巡る少人数のグループ旅に、若い俳人に随行してもらい、町内名所を巡りながら俳句を学び、俳句に親しみファンになってもらいたいと思います。モニターツアーなどを実施し準備をしっかり行い、最適化を図り、小規模ながら定番化を目指す必要があると考えます。

鈴木町長

それでは、黒姫童話館及び童話の森ギャラリーについて説明をお願いいたします。

山原黒姫童話館係長

【資料により説明】

課題は、築 35 年を経過した施設の老朽化に伴う修繕費用の増加です。

集客につなげる方法として、展示されている、童話や絵本を現在の子どもたち向けにするのか、そのままにするのかが課題です。また、デジタルコンテンツではなく、絵本を開き読むという気持ちをもう一度もってもらうために、新しい絵本から古い絵本まで充実させていくことが大切と考えます。

鈴木町長

ただいま三館から入館者の状況、収支の状況、事業の内容について説明をいただきました。今回は特に、文化観光の推進ということを検討事項として職員の皆さんに検討事項としてお願いしました。文化施設ということだけなく、観光的に要素も入れてと思い検討をお願いしました。来年度はナウマンゾウサミット、一茶 200 回忌、童話館のエンデキャンプなどのイベントもあります。ぜひ３館連携して取り組んでいただきたいと思います。これを契機にして、今までと違った形でも考えてほしいと思います。周りのみなさんから提案等ありましたら、積極的に取り入れ活性化していってほしいと思います。

ご質問等ございましたらお願いいたします。

鈴木町長

熱心なご討議をいただきありがとうございました。現状は情報共有できたと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

渡辺次長

これで総合教育会議を閉会といたします。

ありがとうございました。

【午後５時 25 分　閉会】